

ふくおかフィナンシャルグループのお取引先企業の中から、サステナブルファイナンスやSDGsコンサルティングをご利用いただいた企業のサステナビリティの取り組みをご紹介します。

〈今回ご紹介する企業〉

株式会社 ROCKY
イチマル
ICHIMARU

代表取締役社長

い ち ま る ひ ろ の ぶ
市丸 寛展氏

取引店／福岡銀行 筑後支店

サステナビリティ経営を推進し、筑後市初の上場企業へ

筑後市からニッチの頂点へ

ゴム産業発祥の地と言われる福岡県久留米市の南に隣接する筑後市に本社を置く当社は、1万8,000㎡に及ぶ敷地面積に6つの工場を構え、タイヤの加硫工程で使われるバルブの設計製造を主に、タイヤの製造設備機器や産業系の高圧油圧機器製品の設計・製造を行っています。

自動化機器の設計を得意としていた私の父・市丸常一が、福岡県久留米市の大手タイヤ工場の

加硫機に使われている海外製バルブを見て、壊れやすく、かつ修理も容易ではない製品であることに目をつけ、バルブの設計開発からスタートしたことがきっかけで、1978年に「市丸技研」を設立しました。設立後間もなくして当社が開発した

3方ピストン弁は、安価で長寿命でメンテナンスが簡単という理想的かつシンプルな製品だったため、すぐに業界内で知れ渡ることとなりました。

その後も、フランスやアメリカなどの海外大手タイヤメーカーからも発注があり、一気に市場が



〈FFG〉ポジティブ・インパクト・ファイナンス実行の証、記念楯を贈呈（左から市丸社長、村石支店長（福岡銀行））

広がるとともに、当社製のバルブの評判は瞬く間に広がったことで、現在では推計によると国内で90%以上、世界で30%前後のシェアを占めるまでになっています。頻繁にタイヤ製造工場に顔を出すことによって、タイヤ職人の方々との信頼関係



対談中の市丸社長

が深まると、バルブ以外でもコンポーネント機器の設計など、改善とコストダウンを実現したいという相談に応えることが増え、バルブに付随するタイヤ製造機器へと事業領域を広げていきました。

当社は高い設計能力を持つっており、取引先の要望を聞きながら、それを上回るアイデアを提案することを常としています。創業者の「利益よりも取引先からのお礼の言葉が何よりも喜びを感じる」といったモノづくりの精神が、今も企業風土として深く根付いています。

私は1998年に当社に入社し、2017年に社長に就任しましたが、その間にはリーマンショックなど厳しい時代も経験しました。同時に、企業

の成長には土台づくりが必須であると考え、労働条件や環境の改善に努めつつ、企業ブランディングにも力を入れ、「見えないところに価値がある。」をブランド・コンセプトとし、2019年には「市丸技研」から「ROCKY-ICHIMARU」へと社名を変更しました。また2022年には、「ものづくりを進化させ、持続可能な社会の実現に貢献する」というパーパスを掲げ、コロナ禍以降はデジタル化も推進し、現在は株式市場に向けて社内一丸となつて取り組んでいます。

同じものづくり企業のM&Aで事業を「持続可能」に

当社は、さまざまな業界の企業や大学・研究機関と協働し、新たな顧客価値や社会価値を創出し、取引先や社会に貢献していくことを目指しています。近年、社会課題の複雑化や技術革新の加速により、個々の企業や組織だけでは対応できない課題も増えており、こうした状況下において、イノベーション創出は企業の競争力強化や社会課題解決にとって不可欠な要素となっています。当社は、社歴や規模に関係なく、互いに足りないリソースや知見を補い合える企業や団体と協働することで、図面支給の製作組立やOEM／

ODM製作、アフターサービスの委託、製品の共同開発など、よりユニークで価値の高いイノベーションを生み出しています。

こうした協働とともに当社が重要な成長戦略と位置づけているがM&Aです。後継者問題といった社会課題に直面する企業が、長年大切に育んでこられた事業と技術、そしてそこで働く方々のかけがえない情熱を、当社との「共創」によって確かな未来へと繋いでいきたい。M&Aの目的は、単なる事業の拡大ではありません。独自の製品や技術、ニッチな市場で強みを持つ企業と共に新たな価値を創造し、経営の多角化を図ることです。私は、日本の製造業をM&Aによってさらに活性化できると信じています。

金融サービスの導入による課題の明確化

当社は現在、海外への積極的な進出や株式上場を視野に入れて動いており、長期ビジョン「RI-Vision 2030」において、「経営基盤の強化」「既存事業の深化」「新規事業の探索」「サステナビリティ経営の推進」の4つの基本方針を掲げました。その中の「サステナビリティ経営の推進」の一つとして、CO₂の削減などの取り

組みはすでに始めていましたが、その他の問題点の抽出や積極的に取り組むべき具体的な重要課題（マテリアリティ）の設定については、自社だけで進めることに厳しさを感じていました。そんな時、福岡銀行からSDGs取り組みの評価・分析を通じて、サステナビリティ活動をサポートするサービス「サステナブル・スケール・インデックス



ROCKY-ICHIMARU社が手掛けるバルブ製品

（SSI）」や、ポジティブな影響を増大し、ネガティブな影響を低減するためのファイナンス手法「（FFG）ポジティブ・インパクト・ファイナンス（PIF）」について話を聞き、興味を持ちました。

これまでも、金属リサイクル100%の実現、ISO9001、ISO14001の取得などさまざまなサステナブルな取り組みを実施してきましたが、SSIを活用することで当社の立ち位置を改めて特定でき、当社だけでは抽出できなかった課題、ややもすると後回しになるテーマも明確にできました。またその際、脱炭素に関しては温室効果ガス算定ツールを提供する企業、サステナビリティ経営の推進に関してはコンサルティング企業も紹介してもらいました。そしてこの度、PIFも締結したことで、当社は企業ビジョンを社内外に発信しながら、社内全体でKPIの達成を目指しています。一連の流れを通して、サステナビリティの観点から企業のブランド力も向上させることができたと感じています。

再認識した サステナビリティ経営の重要性

設立50年の節目となる2028年を前に、当社は今、株式上場を目指すなど、さまざまな施策を

実施していますが、今回のPIFを通じて、今後の企業成長、経営基盤の足固めには、フロント事業の強化はもちろんのこと、サステナビリティ経営もまた欠かせないものであると再認識することができました。広

報においても、例えば当社のような地方企業は、10年前であれば「知る人ぞ知る」というような、実際に会社へ足を運ばなければわからない部分も多くあったかと思います。しかし、PIFを通して自分たちが何をしているのか、どんなことを考えているのかが明確となり、国内外のステークホルダーの方々への良い情報発信にもなっています。PIFでは22ものKPIを設定しましたが、



筑後市の本社工場

さつそく2025年3月に事業継続計画（BCP）の策定を完了し4月から運用を開始しており、同5月には「健康経営優良法人2025（中小規模法人部門）」の認定を取得し、さらに同6月には「事業継続力強化計画」の認定も取得しました。今後も、社内 に設けたサステナビリティ委員会を中心に、社内全体ですべてのKPIの達成を目指すとともに、グループ全体でのブランド力をさらに磨いていきたいと考えております。



対談時の様子（左から永演課長代理（福岡銀行）、市丸社長、村石支店長（福岡銀行））

株式会社 ROCKY-ICHIMARU

■本社所在地：〒833-0016 福岡県筑後市大字常用601

■電話番号：0942-53-7510（代表）

■事業内容：産業用装置や機器の設計製作

■グループ企業：株式会社ING鉄工所、株式会社新栄精工、株式会社ウインテック、株式会社KONNOPRO



FFG公式YouTubeチャンネルでは同社の市丸社長にインタビューしています。こちらをご覧ください。



FFGでは企業のESG／SDGsの取り組みを支援しています

FFG公式
チャンネルはこちら



ふくおかフィナンシャルグループ
ソリューション事業本部 インダストリーカバレッジグループ
■お問い合わせ：TEL.092-723-2525

サステナビリティに
関することは何でも
ご相談ください

ふくおかフィナンシャルグループのお取引先企業の中から、サステナブルファイナンスやSDGsコンサルティングをご利用いただいた企業のサステナビリティの取り組みをご紹介します。

〈今回ご紹介する企業〉

株式会社 酒見糧穀

さけ み りようこく

代表取締役社長
酒見光一氏

さけ み こう いち

取引店／福岡銀行 北野支店

日本人の食の原点である米を取り扱えることに誇りを持つ

ブランド米の一大産地で

日本人の主食である米に関わる

当社は、九州最大の1級河川である筑後川と、緑豊かな耳納連山^{みのうれんざん}に育まれた筑後平野の肥沃な大地が広がる福岡県久留米市北野町に本社を置き、白米の搗精^{とうせい}(※1)および米穀卸販売業を営んでいます。1979年の創業以来、契約生産者や近郊の一般生産者からは生もみおよび玄米を、農協等の事業者からは玄米をそれぞれ

仕入れ、「主食用白米の搗精」「醸造用白米の搗精」「無洗米加工」「ライスセンター(※2)」「ネット通販」の5つの事業を行っています。搗精後の白米は、日本各地の大手スーパーマーケット、米穀店、大手外食チェーン店、醸造メーカー、地元自治体のふるさと納税の返礼品等として出荷する他、ネット通販、楽天市場で個人向けの小売り販売も行っています。

2012年に、私の父であり創業者(現会長)の酒見俊朗^{としろう}から社長を引き継ぎました。社長に



〈FFG) ポジティブ・インパクト・ファイナンス実行の証、記念楯を贈呈(左から酒見社長、佐々木支店長(福岡銀行))

就任した際に、当社が日本人の主食である米に関わる業務を行っていることに誇りを持ち、安全で安定した品質と価格の米を消費者に届ける使命を受け持つ、という強い信念を社員と共有する経営理念を定めました。



久留米市北野町の本社工場

安全で安定した品質と価格で米を供給できるよう企業努力を続ける一方、脱炭素や廃棄物のリサイクルに取り組み、現存する日本の米作課題を解決すべく、耐暑性、多収性のある品種の種子を契約生産者へ流通するなど、サステナビリティを意識した経営を続けています。

(※1) 精米のこと

(※2) 大型乾燥機や粳攪り機を設置し、近隣の一般生産者が持ち込む生もみを玄米にする施設

最新の設備と豊富な経験で 地域の生産者と消費者を応援

当社が担う5つの事業についてお話しします。

まず「主食用白米の搗精」とは、玄米を精米する工程を言い、高性能なセンサーを持つ最新の機器を導入することで、異物や割れた米などが混入しないように細心の注意を払っています。次に「醸造用白米の搗精」とは、味噌、焼酎、清酒、ビール、みりん、醤油など、それぞれの用途に適した醸造用原料白米や、せんべい、あらねなどの米菓用原料白米を専用のラインで、各メーカーの品質面での要望に対応しつつ精米しています。「無洗米加工」は、当社の工場内で地下天然水のみで洗米し、外食チェーン店や消費者が洗米するの必要な付加価値のある製品を提供しています。天然水以外の媒体を一切使用しないため、安全な無洗米に仕上げています。この無洗米加工では、うまみ成分を残して米糠^{こめか}だけを取り除き、独自の洗米方式により極めて濁度の低い米に仕上げることで、炊きあがった後は冷めても変色しません。洗米に大量の水を使用する大手外食チェーンや、弁当製造事業者などからの要望が多くなっています。「ライスセンター」事業では、契約生産者や近郊の一般生産者が稲刈り後に生もみを持ち

込むだけで、あとは当社が乾燥、粳攪り作業を行うため、生産者の手間が不要となります。多数の乾燥機、粳攪り機を設置しており、生産者ごとの作業が可能で、他の生産者のもみと混ざることはありません。最後に「ネット通販」は、2011年に「九州米大将 楽天市場店」を開設し、九州本土7県の県産米を取り扱っています。2018年から2020年の3年間および2024年に楽天ショップ・オブ・ジ・イヤーを受賞したほか、2023年楽天ショップ・オブ・ジ・エリア2023の九州・沖縄エリア賞を受賞しました。また地元



上.主食用白米の精米工程／下.楽天市場で数々の賞を受賞

である久留米市と、大刀洗町のふるさと納税の返礼品としても当社の米が活用されています。

実践するサステナビリティ経営

当社は日本人の主食である米に特化した事業を営むことから、持続可能でなくてはならず、常にサステナビリティを意識した経営を実践しています。無洗米加工の工程においては、加工の際に大量の米のとぎ汁が発生しますが、そのとぎ汁の上澄み液だけを農薬用水として利用し、沈殿して固形化した残渣を廃棄物として処分しています。ところが米のとぎ汁が、堆肥と混ぜることで堆肥中の微生物の餌となることがわかり、以降は堆肥と混ぜて関連企業で生産する農作物の肥料として使用しています。さらに2024年からは、その残渣を近郊のバイオマス発電所の燃料として譲渡することで残渣の全量をリサイクルしています。無洗米の販売を増やすことで、販売先の大手外食チェーンや消費者による米の洗浄が不要になり、販売先での過度な洗浄を防ぐ節水効果と、廃棄物の排出抑制効果の双方に貢献しています。

また米袋に関しても、一般的にはスーパーの店頭などで3 kg、5 kg、10 kg用としてポリエチレン製の袋が使用されています。当社では、2024年

以降、無洗米の充填時には非食用米由来の国産バイオマスプラスチック「ライスレジン®」を原料とした袋を使用しています。この「ライスレジン®」は生分解性がある

だけではなく、製造時にCO₂の発生を抑制する製品です。今後は無洗米だけでなく、すべての製品を充填する際に、同等の国産バイオマスプラスチックを原料とする袋を使用する予定です。



ライスレジン®を原料とした米袋を採用

＜FFG＞ポジティブ・インパクト・ファイナンスの利用

例年9月から10月にかけて稲刈りのシーズンになると、多くの生産者が生もみを持ち込むことで、当社のライスセンターにトラックの長蛇の列が並ぶことが、地域の風物詩となっていました。そこで契約生産者や一般生産者の待機時間を大幅に削減するために、ライスセンターに新たな設備を導入することにしました。

その建設資金を調達する際に、福岡銀行北野支店から、サステナブル・スケール・インデックスと＜FFG＞ポジティブ・インパクト・ファイナンスの提案を受けました。当社は前述のとおり、サステナビリティを意識した経営を実践しており、課題解決のための資金調達をこの＜FFG＞ポジティブ・インパクト・ファイナンスで行うことに決めました。

＜FFG＞ポジティブ・インパクト・ファイナンスでは、「CO₂排出量の削減」「大気汚染物質の排出抑制」「（無洗米加工用）米のとぎ汁の再利用」「国産バイオマス由来の包装用資材の全製品への展開」「事業継続計画（BCP）の策定」「労働災害発件数ゼロの継続」「災害時の食料支援協定の締結」「JFSIB

規格認証の継続取得」と8項目ものKPIを設定しました。これらのKPIは当社だけの行動だけでは実現が困難なものもあることから、福岡銀行をはじめとしたふくおかフィナンシャル



新設したライスセンター内部

グループの協力を得ながら、KPI達成に向けて全力で取り組む方針です。

今回設定したKPIについては、福岡銀行の担当者と進捗状況を双方確認することになっています。進捗状況によっては福岡銀行が当社にサポートいただけるということ、大変心強く思っています。今回の(FFG)ポジティブ・インパクト・ファイナンスを通じて、当社のサステナビリティ経営をさらに進展させたいと考えております。



対談の様子(左から酒見社長、佐々木支店長(福岡銀行))

株式会社 酒見糧穀



■本社所在地：〒830-1102 福岡県久留米市北野町八重亀456番地の1

■電話番号：0942-78-4138(代表)

■事業内容：(主食用・醸造用白米の)搗精、無洗米加工、および米穀卸販売、無洗米加工、ライスセンター事業、米のネット通販

■関連会社：株式会社酒見農産、九州穀物検査協会株式会社、福岡県農産物集荷協同組合、株式会社アグリマイスター九州、ライスブラザーズ株式会社



FFG公式YouTubeチャンネルでは同社の酒見社長にインタビューしています。こちらをご覧ください。



FFGでは企業のESG/SDGsの取り組みを支援しています

FFG公式
チャンネルはこちら



ふくおかフィナンシャルグループ
ソリューション事業本部 インダストリーカバレッジグループ
■お問い合わせ：TEL.092-723-2525

サステナビリティに関することは何でも
ご相談ください